

2017 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第3戦
SUGO SUPERBIKE 120 miles ENDURANCE RACE

宮城県 スポーツランドSUGO (1周=3.7375km)

■渥美 心 JSB1000 予選:23番手 (タイム:1分46秒329) 決勝:15位

■岡崎静夏 J-GP3 予選:13番手 (タイム:1分53秒972) 決勝:15位

天候:2017年5月13日(土) 雨 コース:ウエット

5月14日(日) 雨 コース:ウエット

観客動員数: 5,100人(2日間合計)

080 渥美 心 Cocoro Atsumi
class : JSB1000
machine : Honda CBR1000RR

6 岡崎 静夏 Shizuka Okazaki
class : J-GP3
machine : TSR3

二人に試練を与えた雨のSUGO

全日本ロードレース選手権第3戦が宮城県・スポーツランドSUGOで開催された。今年も昨年より一カ月早い時期となり、いい天気でのレースが期待されたが、その思いは残念ながら打ち砕かれる結果となった。

木曜日の特別スポーツ走行から始まったレースウィーク。SUGOには、開幕戦筑波を終えた後、テストに来ていたが、そのときはコンディションも変わっており、マシンをアジャストしながら周回。初日は、晴れているのに雨が落ちてくる不安定な天候だっただけに様子を見ながらの走行となる。翌金曜日は、快晴となり気温も上昇して行き、ドライコンディションの中、渥美は1分30秒107で17番手、岡崎は、1分37秒557で12番手につけていた。



土曜日は、朝から雨となり、ウエットコンディションでの公式予選となった。J-GP3クラスは、40分間のセッションで予定通り行われ、まずはマシンの確認を行いタイムを出していくが、セッション中盤辺りから雨足が強くなりタイムを更新するのが厳しい状況となって行く。岡崎もセッション序盤にマークしたタイムがベストとなり、13番手となる。その後、コースは霧に覆われてしまい、セッションがキャンセル。JSB1000クラスの公式予選は、日曜日の朝に行われることになった。

日曜日にも冷たい雨に見舞われ、30分で行われたJSB1000クラスの予選では、初めてJSB1000で走るSUGOの雨に合わせてマシンセットと共に自身のライディングも考えながらタイムを縮めて行くが、時間が限られている。

計測最終周にベストタイムを記録するものの23番手と厳しい予選となった。

18周で行われたJ-GP3クラスの決勝レース。岡崎は、序盤からペースを上げられず17番手を走行。雨の中、自分自身のライディングに足りないものを考えながら走行を続け、レース終盤に前のライダーをパス。17周目に自己ベストをマークし15位でゴールした。

そして52周というセミ耐久で争われたJSB1000クラス。序盤から転倒するライダーも多い中、渥美もJSB1000マシンでのウエットライディングの経験がない分、慎重に少しずつペースを上げて行った。途中ガスチャージのピットインを行い、一人で1時間半の長丁場を走り切り15位でチェッカーフラッグを受けた。



渥美 心コメント

「サバイバルレースになると思っていましたので、転倒だけは絶対にしないと走り切っていました。JSB1000マシンでフルウエットを走るのが初めてなので慎重になりすぎた部分もありましたが、最後まで走り切れたことは自信になりました。予選から決勝に向けてセットを変更したことも、いい方向に行きましたし、雨のライディングを考えながら走ることができました。次戦からスプリントレースになるので、事前テストからマシンを仕上げて上位を目指します」

岡崎 静夏コメント

「SUGOのウエットを走ったことで、あらためて自分を見つめ直すレースになりました。ドライでは、他のライダーについていきタイムを出すことができていましたが、雨のライディングでライダーがすべき基本的なことができていないことに気がさせられました。決勝中も転倒は避けたいという思いが先行してしまい、ペースを上げられずにいました。レース後に小原さんにデータを見てもらい、ウィークポイントが分かったので次戦に向けて改善して行きたいと思っています」

小原 監督コメント

「クラスも立場も違いますが、奇しくも二人とも15位と苦戦しました。渥美は、JSB1000、1年目でウエットの経験がない中、しっかり長丁場のレースを走り切ったことは糧になったはずですので、今後に生かして欲しいですね。岡崎は、ふたを開けてみれば厳しい状況という現実を突きつけられていましたが、気持ちが先行していた部分を再確認し、前に進んでもらいたいですね」

